

はじめに

大規模な自然災害が国内外を問わず頻発する中、災害の教訓を世代や地域を超えて語り継ぎ、防災・減災能力を育成し災害に備える防災教育への期待が高まっている。このため、学校において防災教育を実践する「担い手」としての教職員を対象とした研修の充実が求められている。

兵庫県教育委員会では、阪神・淡路大震災の経験を生かし、従来の安全教育に加えて、助け合いやボランティア精神など「共生」の心をはぐくみ、人間としての在り方生き方を考えさせるなど、「新たな防災教育」を展開してきた。その推進にあたって、県教育委員会では防災教育に関する教職員のリーダー養成に取り組んできた。

また、震災時に受けた全国からの支援に報い、国内外で発生した大規模災害に対応するため、リーダー養成の講座の修了者や震災時に被災地の学校で避難所運営に携わった教職員などが中心となって、被災地の学校再開を支援する組織として「震災・学校支援チーム（EARTH）」を、平成12年4月に創設した。

震災から十有余年が経過し、防災教育の取組の成果を蓄積する一方で、震災の記憶の風化が懸念されている。こうした中、これまでの取組の成果を踏まえ、震災の教訓を次代に語り継ぐ取組を一層充実することが求められている。このため、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、兵庫県立舞子高等学校、神戸学院大学、人と防災未来センターが中心となって、新たに「防災教育開発機構」を設立し、行政、学校、研究機関が連携・協力して防災教育の充実に取り組む体制を整備した。

このたび、文部科学省の「防災教育支援推進プログラム『防災教育支援事業』」に採択され、「防災教育開発機構」において、「地震を中心とした防災教育の高度化と全国普及」をテーマに、2年間にわたって研究を行ってきた。研究内容は、大きく幼児児童生徒を対象とした教材・教育プログラムの研究開発と教職員対象の研修プログラムの開発とに分かれるが、兵庫県教育委員会は、後者を担当した。

本冊子は、兵庫県教育委員会が実施してきた防災教育のリーダー養成のための研修の評価・検証を行い、それを踏まえて作成した防災教育研修プログラムと活動事例をまとめたものである。本冊子が、教育委員会等が実施する研修や校内研修に活用され、学校において防災教育や学校防災体制、災害時の児童生徒の心のケアなどを推進する「担い手」としての教職員の意識の向上や指導方法の工夫改善に資することを願っている。

目次

防災教育支援事業による研究の概要	1
この本の使い方	4
ガイド	5
教員研修プログラム	
プログラム体系図	9
阪神・淡路大震災の概要	10
研修日程例	11
(活動事例)	
〔初級編〕学校に避難所が開設された時の運営方法	14
〔初級編〕副読本、学習資料等の活用	18
〔初級編〕防災訓練の実践方法	22
〔中級編〕防災学習教材の開発及び活用について	26
〔中級編〕ボランティア実践発表	30
〔中級編〕心のケア授業	32
〔上級編〕被災した学校の早期再開の方法	34
〔上級編〕避難所における食の支援方法	36
〔上級編〕防災教育推進上の工夫	40
〔上級編〕災害時の対応シミュレーション(学校教育の早期再開)	44
〔上級編〕災害時の対応シミュレーション(避難所運営)	46
補助資料	
「避難所としての学校の部屋割りについて」	53
避難所運営に関する資料	57
防災(避難)訓練について	67
「非常持ち出し袋を考えてみよう」	69
「かばくんの気もち」	75
リラクセーションに関する資料	81
「学校の早期再開に向けて」に関する資料	83
「避難所における食の支援方法」に関する資料	87
災害による心的ストレスの概念	95
参考資料	
防災教育に関する情報のページ	103
EARTH 訓練・研修会プログラム	105
EARTH 訓練・研修会活動事例	106

防災教育支援事業による研究の概要

阪神・淡路大震災の教訓の風化が危惧される中、東南海、南海地震など今後の災害に備えるためにも防災教育の充実を図る必要がある。

このため、兵庫の防災教育の中核を担う震災・学校支援チーム（EARTH）の訓練・研修会及び防災教育推進指導員養成講座の内容の充実・改善を通して、全国の防災教育に資する教職員研修プログラムを作成し、全国に発信する。

1 兵庫県における防災教育のリーダー養成の取組

(1) 震災の経験を生かしたリーダー養成

阪神・淡路大震災後、県教育委員会が設置した「防災教育検討委員会」（平成7年度）や「防災教育推進協議会」（平成8年度）において、防災教育に関する専門的な知識技術を習得した防災教育推進教員の養成が提言された。これを踏まえ、県教育委員会では、学校における防災教育の充実を図るため、震災の経験を生かし、専門的な知識を備えた教職員を計画的・継続的に養成するための講座を平成10年度に開設し、長期的な展望に立った防災教育の推進に努めてきた。

(2) 防災教育推進指導員養成講座

防災教育推進指導員養成講座は、[初級編][中級編][上級編]の3講座からなり、それぞれ2日間の日程で実施し、受講者は1年目に[初級編]と[中級編]を、2年目に[上級編]を受講する。

受講者の定員は30人程度で、小・中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校の教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員を対象に、教育事務所を通して県内全域から募集し、校種や職種のバランスにも配慮しながらリーダー養成を行ってきた。

平成21年度末時点で、防災教育推進指導員養成講座修了者は約340名に登っている。

(3) 震災・学校支援チーム（EARTH）

震災時に寄せられた国内外からの支援に応え、被災地の学校教育再開を支援するため、専門的知識と実践的対応能力を備えた教職員により構成する震災・学校支援チーム（EARTH: Emergency And Rescue Team by staff in Hyogo）を平成12年4月に創設した。

創設時は、震災時の避難所運営や学校再開、児童生徒の心のケアの経験をもつ教職員を中心に組織された。その後、平成10年度に開設された防災教育推進指導員養成講座の修了者が毎年加わり、現在に至っている。

【EARTH 構成員数の推移】

〔単位：人〕

年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
人数	90	104	111	120	132	147	148	148	148	155

【EARTH 構成員の内訳】（平成21年度）

〔単位：人〕

校種等	小学校（市立特別支援学校を含む）				中学校				県立学校				S C	計
	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員		
人数	59	7	12	10	23	7	3	10	16	2	0	1	5	155

EARTH は、県内の公立小・中・高・特別支援学校の教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員及びカウンセラーで構成される。学校教育班、心のケア班、避難所運営班、学校給食班、研究・企画班の5つの班からなる。構成員の委嘱は2年ごとに更新され、職種や適性、希望に応じて各班に配置される。

構成員のスキルアップを図り、組織としての機動性の維持・向上を図るため、年2回の訓練・研修会を実施している。

EARTH は、他府県等において地震等の災害が発生した場合に、被災地の学校に派遣され、学校教育の応急対策と教育活動の早期再開、児童生徒の心のケア、学校における避難所運営支援などの支援活動を行う。

また、平常時には、県内外の防災教育研修会での指導助言をはじめ、県・市町の総合防災訓練や研修会に参加し、学校と地域、関係機関等との連携を図るなど、学校の防災教育・防災体制のリーダーとして活躍している。

2 防災教育に係る教職員研修プログラムの開発

(1) 防災教育研修プログラム検討委員会の設置

防災教育推進指導員養成講座と震災・学校支援チーム（EARTH）訓練・研修会の内容の充実・改善を図り、全国の防災教育の推進に資する教職員研修プログラムを作成するため、学識者（2名）及びEARTH研究・企画班のメンバー（8名）からなる「防災教育研修プログラム検討委員会」を設置し、実践研究を行った。

(2) 研究の経緯

検討委員会では、平成20年度に、防災教育推進指導員養成講座と震災・学校支援チーム（EARTH）訓練・研修会の内容の評価・検証を行い、それを踏まえて防災教育推進指導員養成講座のプログラムの見直し及び震災・学校支援チーム（EARTH）訓練・研修会のプログラム（案）の作成を行うとともに、プログラムを構成する各コマの内容（活動事例）について検討した。

平成21年度には、前年度に検討した研修プログラム及び活動事例に基づいて研修を実施し、実地検証を通して研修プログラム及び活動事例について、より実践的な内容になるよう修正を行った。

平成20年度の取組

第1回委員会（10月7日）

ア 平成20年度の研修の評価・検証

- ・平成20年度 初級編、EARTH 訓練・研修会（第1回・第2回）の評価結果について

イ 防災教育推進指導員・EARTH 員に必要とされる知識・技能について

ウ 研修内容の見直し

- ・平成20年度の研修プログラムの見直し
- ・事務局が作成した研修プログラムの検討

第2回委員会（12月9日）

ア 平成20年度の研修の評価・検証

- ・平成20年度 中級編、上級編の評価結果について

イ 平成21年度の研修を実施するにあたっての内容作成

- ・平成21年度の研修プログラムの検討

- ウ 研修内容の検討
 - ・活動事例の検討

第3回委員会（1月28日）

- ア 研修プログラムと活動事例の検討

第4回委員会（3月6日）

- ア 平成21年度の研修を実施するにあたっての検証方法の検討

平成21年度の取組

第1回委員会（7月13日）

- ア 本事業について
 - ・本事業の趣旨の確認
 - ・委員の確認
 - ・年間計画について検討
- イ 研修プログラムについて協議
 - ・検証方法について
 - ・活動事例の担当について
- ウ 平成21年度の研修の評価・検証
 - ・初級編の評価結果について
- エ 活動事例の検討
 - ・初級編で実施した活動事例について検討

第2回委員会（9月8日）

- ア 平成21年度の研修の評価・検証
 - ・第1回訓練・研修会について評価・検証
 - ・第2回訓練・研修会について評価・検証
- イ 研修内容の検討
 - ・活動事例の検討

第3回委員会（2月18日）

- ア 平成21年度の研修の評価・検証
 - ・平成21年度中級編、上級編の評価結果について
- イ 研修プログラムについて評価・検証
 - ・平成21年度研修プログラムについて評価・検証
 - ・平成21年度検証プログラムについて検証結果のまとめ
 - ・提出する研修プログラム（案）について確認
- ウ まとめの冊子（事例集）について検討
 - ・掲載する活動事例について検討
 - ・まとめの冊子（事例集）の構成について検討

3 研究成果の発信

本研究の成果は、冊子にまとめ都道府県教育委員会等に配布するとともに、兵庫県教育委員会のHPでも公開することとしている。

また、他府県等からの要請に応じて、EARTH員を防災教育研修会等の講師として派遣し、本研究の成果を発信していく。

この本の使い方

ガイド

分野ごとにまとめました。どんな研修を実施するのかを考える時にご活用ください。

体系図

兵庫県教育委員会が実施している防災教育推進指導員養成講座（初級編～上級編）を元に、防災教育の内容について、「学校防災体制の充実」、「防災教育」、「心のケア」の3つの分野に分けるとともに研修の到達度を、「初級編」から「上級編」までの3段階として作成した研修プログラムの体系を一覧にして示しています。この体系図で研修全体を見通すことができます。

なお、初級編から上級編の目指すレベルは次の通りです。

- 初級編・・初めて防災教育に取り組む教職員を想定し、「防災教育の授業ができる」「防災訓練のねらいを説明できる」ことをめざします。
- 中級編・・学年や学校全体で継続的に防災教育に取り組む際の推進役を想定し、「防災教育の自校独自の工夫ができる」「防災訓練のバリエーションを広げることができる」ことをめざします。
- 上級編・・学校と地域が連携した防災教育体制づくりをめざす教職員を想定し、「災害に強いまちづくりをめざす防災教育の工夫ができる」「学校が大規模な災害で被災した場合にも対応できる」ことをめざします。

日程・活動事例

兵庫県が実施している防災教育推進指導員養成講座の研修プログラムの「日程」と「活動事例」を掲載しています。「日程」では研修時間や講師などを、「活動事例」では具体的な研修の進め方を示しました。研修計画を立てる時に参考にしてください。

補助資料

活動事例を実施する場合に使用する資料や参考となる資料をまとめました。

参考資料

兵庫県教育委員会が実施している震災・学校支援チーム（EARTH）の訓練・研修会の事例を挙げています。防災教育のリーダー養成研修の一例としてご活用ください。また、研修講師の依頼先等防災教育に関連のある情報を掲載しています。

ガイド

学校の防災体制の充実を図るには・・・

危機管理について見直したい

程度	形態	研修名	内容	時間(分)
				事例掲載頁
初級	演習	学校に避難所が開設された時の運営方法	避難所開設区域の設定や開設手順、避難所運営のルール作りについて図上訓練により演習する。	110 ----- 14～17
中級	講義	都道府県の防災体制	都道府県の危機管理方法、防災情報システム等を学び学校の防災体制にいかす。	70 ----- -
上級	演習	被災した学校の早期再開の方法	災害時における学校の早期再開と避難所運営の方法について演習する。	110 ----- 34～35
上級	演習	避難所における食の支援	避難所における食の支援について演習する。	120 ----- 36～39

防災訓練を工夫したい

程度	形態	研修名	内容	時間(分)
				事例掲載頁
初級	演習	防災訓練の実践方法	防災訓練(事前、事後指導も含む)の指導案を作成する。	120 ----- 22～25
中級	演習	救急救命法	広域防災センター(消防学校)でAEDや消火栓の使用法、起震車体験等による演習を行う。	兵庫県では2日間の研修のうち1日をあてる。
中級	講義 見学	防災施設見学	広域防災センターの設立趣旨についての講義及び備蓄倉庫、防災施設(E-ディフェンス)を見学する。	
上級	講義	自主防災組織の役割	自主防災組織関係者又は地域と連携した防災訓練を実施している学校関係者による講義を聞く。	60 ----- -

防災教育を推進するには・・・

教材開発や防災教材の活用方法を知りたい

程度	形態	研修名	内容	時間(分)
				事例掲載頁
初級	講義	防災教育実践	防災教育の実践例を聴き、防災教育の推進方法を学ぶ。	80 ----- -

初級	演習	副読本、学習資料等の活用	指導案の作成を通して副読本、学習資料等を活用した指導案の作成を通して活用方法を協議する。	120 ----- 18~21
中級	演習	防災学習教材の開発及び活用について	防災学習教材の開発及び活用について演習する。	100 ----- 26~29
上級	講義	各教科における防災教育	各教科における防災教育について実践例を聴き、防災教育を多角的に見ることができる力を養う。	50 ----- -
上級	協議	防災教育推進上の工夫	各学校で防災教育を実施するにあたっての課題を出し合い、その解決策を協議する。	80 ----- -

ボランティア活動を実践したい

程度	形態	研修名	内容	時間(分)
				事例掲載頁
初級	講義	ボランティア基礎知識	ボランティア活動の意義や災害ボランティア活動に参加する時の最低限の知識等を専門家等から聴く。	90 ----- -
中級	発表協議	ボランティア実践発表	災害ボランティアに従事するNPO関係者やボランティア実践校の児童生徒等の実践発表を聞きボランティア教育の在り方について協議する。	70 ----- 30~31
上級	講義	ボランティアコーディネーター	ボランティアコーディネーターの役割や災害時における学校のボランティアの受入、要請、調整方法を学ぶ。	110 ----- -

心のケアについて研修するには・・・

程度	形態	研修名	内容	時間(分)
				事例掲載頁
初級	講義	心のケア基礎知識	災害時の児童生徒の心の状況を理解し、教師としての対応を学ぶ。	90 ----- -
中級	演習	心のケア授業	災害が引き起こすストレスとその反応について理解し、被災児童生徒のストレスを解消する方法の一つとして紙芝居を作成する。	120 ----- 32~33
上級	講義演習	心のケア発展知識	被災児童生徒の事例をもとに、災害時に教師ができる被災児童生徒等への対応方法を学ぶ。	120 ----- -

